参考資料

「日常の外出と路線バスについてのアンケート」素集計

【調査概要】

- 配布：郵送配布 11 月 5 日　3,000 人
  - ✧ 役場のデータにより無作為に抽出した人を対象に郵送
- 回収：11 月 15 日までの行動等を記入してもらってから郵送(着払い)を依頼
  - ✧ 12 月 25 日までに，878 通を回収（ほか，無記入 1 通）
  - ✧ 回収率　29.26％
- 素集計速報について
  - ✧ 12 月 25 日までに到着した 878 通を対象として，先行して集計・分析を行いました。
  - ✧ 単純集計として主要な分析結果は別途資料のとおりです。

【回答者の属性（問 D)】

- 60 歳以上が全体の 50%と，比較的，公共交通のニーズの高い高齢者から多く回答が得られています。
- 性別では，女性が 61.0%と多数を占める結果となりました。
- 職業では，会社員・公務員が 29.3%を占める一方で，専業主婦・主夫を除く無職が 24.4%となりました。
- 全体の 83.7%が運転免許を保有しており，また全体の 82.5%が自分で運転をする人です。「自由に使える車」があると答えた人は 91.5%になっており，自分で運転をしなくても家族の送迎等によって利用できる車のある人がほとんどという状況にあります。
- デマンドタクシー「あいのりくん」の登録は，回答者の 18.5%でした。

【路線バス運行の周知状況（問 C)】

- 路線バスの周知の状況は，路線によって違いが見られました。
- 運行を知っていると答えた人の割合は，茨城東病院・海浜公園線では 68.8%に対して，おさかなセンター線・笠松循環線では 53.8%，フローレスタ須和間線は 42.0%でした。
- また目的地でも同様の傾向にあり，茨城東病院や海浜公園では全体の約 4 割の人が知っているのに対して，須和間線の改変で村立東海病院や総合福祉センター絆を通っていることを知っているのは，約 2～3 割となっています。

【路線バス運行のサービス水準の評価（問 C)】

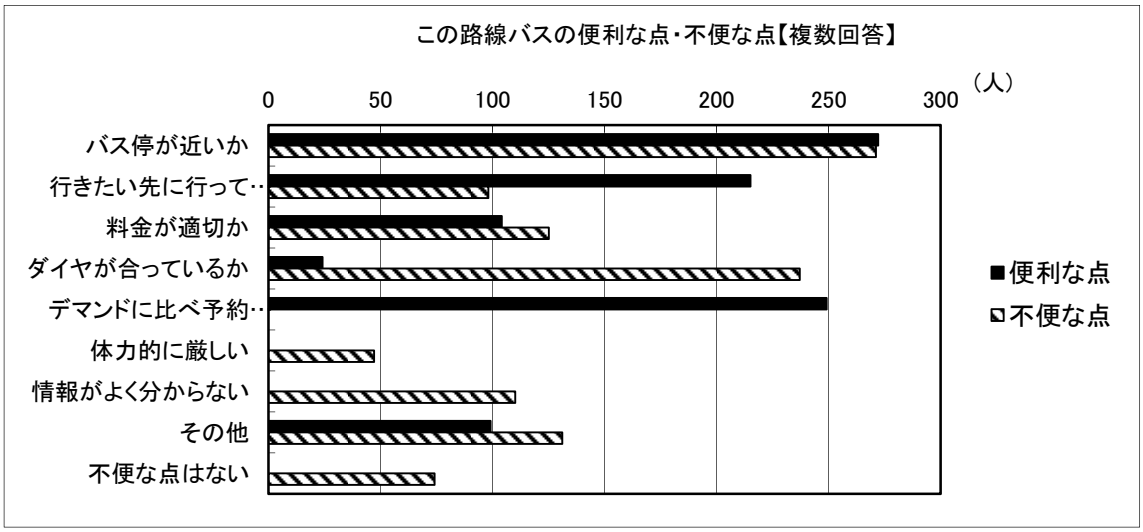
- 便利な点と不便な点に分けて聞いた結果を一つの図に示したものが下図です。これはこれまで利用したことのない人にも案内チラシを見て評価してもらったものです。

・「行きたい先にバスが行っているか」については，便利とする人が不便とする人の 2 倍以上になっており，概ね多くの人が望む先に行ける路線であると言えます。

・「バス停と自宅が近いかどうか」は，便利とする人と不便とする人がほぼ同数という結果になりました。具体的な場所等によってさらに分析を行う予定です。

・「料金が適切か」についても，便利とする人は不便とする人よりやや少ないものの，差はあまり大きくありません。

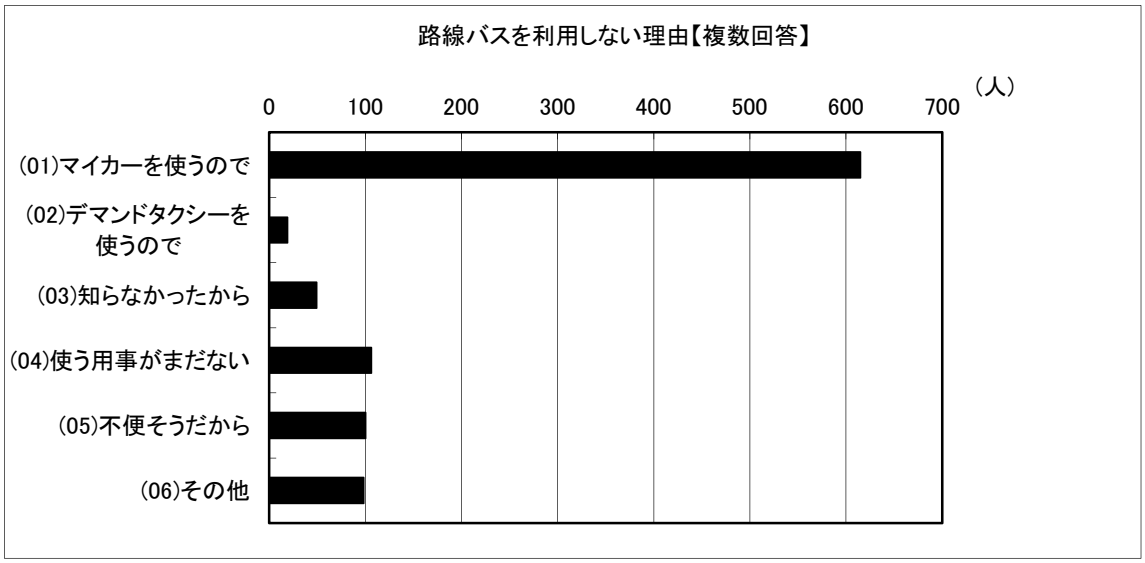
・このほか，「ダイヤがあわない」「情報がよくわからない」との回答が目立っており，こういった点でさらなる工夫を検討することが重要と考えられます。

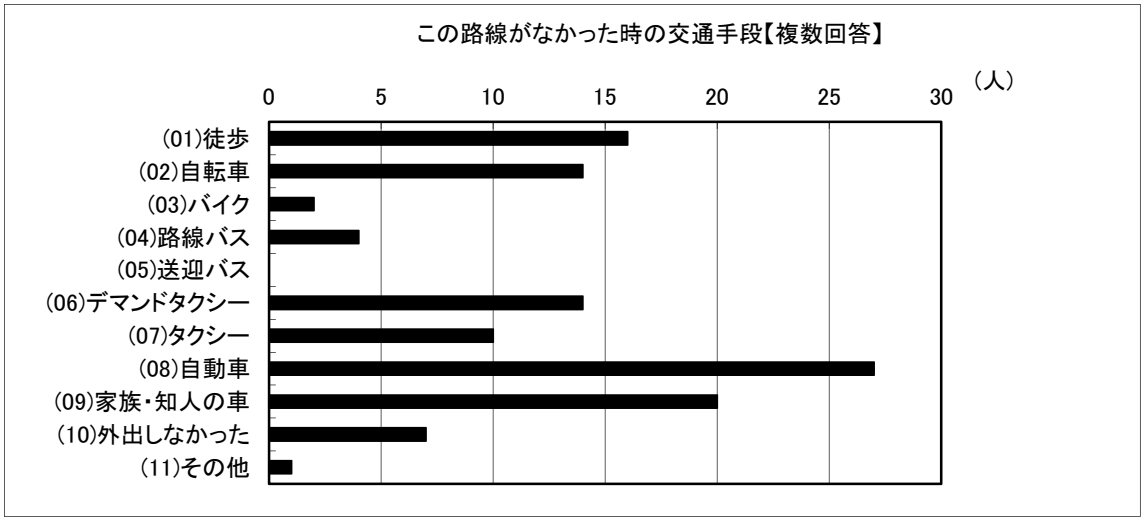


・バスを使っていない理由を聞いた結果が下図です。使っていないと答えたなかの 767 名から回答がありました。

・「使う用事がまだない」と答えていて，きっかけがあれば利用する可能性のある人がいることがわかります。

・その一方で，不便そうだから，知らなかったからと答えている人もいて，まだ潜在化している需要もあることがうかがえます。



【路線バス利用者の行動変化（問 C）】

- 路線バス利用者 69 名からの回答がありました。
- 路線バスがなかったときの交通手段について一つの図に示したものが下図です。
- デマンドタクシーからの転換が見られるものの，マイカーや家族・知人の車，またバスを使う目的地への外出はなかったとするものが見られます。
- グラフではこれらの 3 つの項目の回答数は延べ数しかわかりませんが，個々の回答者ごとの回答パターンを確認したところ，69 名中の 50 名が，この 3 つのいずれかに答えていることがわかりました。
- このことから，今回の路線バスの改変により，マイカーや家族送迎からの転換，またこれまでいけなかったところに行けるようになったという，当初の期待どおりの効果を挙げていると言えます。